

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373200298		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホームびっちゅう		
所在地	岡山県高梁市備中町平川6385-10		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouyoCd=3373200298-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで季節感も十分感じられる天空の里平川に当事業所は建っている 花 野菜づくり環境整備職員と共に和気あいあいと共同作業をしている 天気の良い日は散歩がてら金魚のえさやり ドライブに出かけ気分転換を図っている 時にはテラスでティータイムを楽しんでいる 季節の行事も取り入れ地域住民に温かく見守られ楽しくのんびりとした生活が出来ている 利用者 職員共に落ち着ける場所となるよう工夫しながら日々頑張っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺の市営住宅と地区集会所を併設している事業所建物は町並みが統一され、お洒落な景観となっている。生活の営みや夕刻からの灯りは、見慣れた里山の景色と相まって、利用者に落ち着きと安心をもたらすものと思われる。住み慣れた地域での、その人らしい穏やかな暮らしの継続ができています。地域との繋がりが強く、年末の大掃除には沢山の人が手伝いに来てくれている。窓ふき、ワックスかけ、草取り等、普段できないところを掃除してくれ、環境整備に協力してくれている。職員は全員が平川地区に居住しており、コミュニケーションも良く図られている。「できるかできないかではなく、やるかやらないか」を合言葉に、利用者本人の思いを尊重した自立支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが出来るよう努力している	事務所内に掲示している。「寄り添い一緒に歩むケア」と基本の姿勢を示した分かりやすい理念で、新任研修時に伝え、職員全体での意識の共有を図っている。	必要な研修を年間計画の中に組み入れ、実施していくことで、職員一人ひとりの意識付けを図って欲しい。理念の実践と共に、研修を継続し、支援の質の向上に繋げる取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やイベント等参加しているが日常的とは言えない	近所の方が野菜を持って立ち寄ってくれている。年末の大掃除にも来てくれ、秋祭りの「渡り拍子」の訪問や、踊りのボランティアの定期的な訪問もある。地域の一員として、地区の運動会に参加する等、地域の理解と支援を得て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生かせるよう努力している	コミュニティ会長、民生委員、老人クラブ会長、市福祉課職員、包括支援センター職員等の参加で2か月毎に開催している。平川地区内に「SOSネットワーク」会員が多いことから、登録を勧められ、地域の実情に即したアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を利用し報告相談している	市の委託を受けている事業所であり、運営推進会議にも出席してくれ、課題や、取り組みの実情を理解してくれている。問題解決に向けて、連携する体制が構築され、入居者を探す協力もしてくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはほぼ理解しているが業務上やむをえない場合は玄関の施錠はしている家族には理解を求めている 居室の場合は家族に了解を得ている	居室からテラスに出ることもでき、見守りを工夫しながら、一人ひとりの状況に応じた声かけや付き添いをしている。ストレスを溜め込むことがないように、自由に過ごしてもらいたいとの思いで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あってはならない事なので注意をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度はおおむね理解はしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解してもらえるように努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に本人の状況は話をさせてもらっている 手紙でお知らせする場合もある	日々の暮らしの様子や、健康状態等を伝え「遠慮なく言ってください」と一言添えて、意見や要望を聞き取る努力をしている。手紙では、さらに詳しい近況報告や介護計画の説明をし、家族からの意見や要望を記入する欄を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者の意見交換は日頃より行っている個人的に意見を述べる機会はない	月1回の職員会議や毎日の申し送り時に、よく話し合われている。会議の継続で、連携の体制が強化されてきている。職員意見から、掃除やレクリエーション活動の時間配分が検討され、利用者にとって最良の方法に改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えてもらっているようではあるが実感はあまりない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量は把握されていないように思う		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGH会議では情報交換や相談が来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は特に本人と寄り添い声掛け傾聴し不安を取り除くよう努める事で信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け出来る事は実践している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努力している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話には耳を傾けるようにしている 思いに沿えるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を理解してもらえよう話をして いる本人の思いを本人の言葉で伝える事もある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方は時間のある時に面会に来られている地域の方には面会をお願いをする事もある	家族と一緒に外出し、親戚の家に行ったり、自宅に戻って草取りをしたりする人もいる。盆や正月には自宅に帰れるよう、協力をお願いしている。家族と過ごす時間も大切に考えながら、継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士が集える空間づくりに配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事実上の支援はない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見や希望があれば聞いている 情報の共有や職員会議等で対応を検討している	日頃のかかわりや、会話の中から把握するように努めている。本人が好きな事や、興味を持っている事を探し、穏やかで落ち着いた生活ができるように本人本位の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握はしている 個々にあった方法で支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な情報は共有し意見交換している	更新時に見直し、変化があればその都度見直し、作り直している。管理者は職員に、利用者9人のすべてを観るようにと、注意を促している。職員全員でモニタリングやカンファレンスを行い、意見交換している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務職員会議などで情報を共有し実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟性を持って対応するよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回定期受診はしている 緊急時には家族に連絡し対応している	協力病院から医師が派遣され、週2回平川診療所が開業している。月1回の協力医の受診や、泌尿器科や精神科等の専門医の受診にも職員が付き添っている。家族に経過や結果を報告し、医療面での安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護に来てもらっている 個別相談やアドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	心掛けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している	地域柄、24時間の医療連携が図れず、看取りは行っていない。状況変化に応じて話し合い、事業所としてできる範囲の最大の支援で取り組んでいる。特別養護老人ホームや老人保健施設等に入所の申し込みをしてもらうこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当AEDの使用方法等の指導をもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を開いている 複数の避難経路の確認もしている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、昨年はAEDの講習を行った。今年は消火訓練を行うべく検討している。地元消防団が近くにあり、近所に団員も住んでおり、協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け対応に注意している	尊厳を守る対応は、自然な形でできているが、時々、職員会議等で取り上げ、意識付けを行っている。失敗した時は他者の目に触れないように処理したり、職員間の伝達時も固有名詞を避けたりし、プライバシーの保護にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がマイペースで過ごせるよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられるものの提供や個々の力量により共同作業をしている	食べたい物を聞きながら、肉と魚をバランスよく取り入れた献立を考えている。柏餅等季節を感じるおやつも作っている。テーブル拭き等できる事は手伝ってもらい、会話しながら同じ食事を摂り、食事が進む楽しい雰囲気作りも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた方法で毎食後支援している 義歯洗浄も週2回している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け誘導にて支援している 出来る事は自分でしてもらうようにしている	一人一人の能力や習慣に合わせて、排泄用品を検討している。夜間の対応も、本人の力量に応じた工夫をし、安眠を妨げないようにしている。声かけや見守り程度の人が多く、継続的な自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動や水分補給に配慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて支援できるようにしている	午後から3~4人の予定で入浴しており、希望があれば毎日の入浴もできる。洗える所は自分で洗ってもらい、本人のペースでゆっくり入浴している。拒否のある人には、声かけを工夫したり、翌日に入ってもらったりして、無理なく支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた室内温度や寝具などで対応している 状況に応じて休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いよう複数の職員で確認し合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者全員で楽しめるようなレクリエーションを心掛けている 気分転換にもなる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じてもらえるよう散歩やドライブをしている	天候やその場の雰囲気、ドライブに出かけている。気分転換やストレスの発散の為に、全員で出かけ、季節の花を見たり、買い物を楽しんだり、6月にはラーメンを食べに行った。付近の散歩等で、日常的に外気に触れる機会も作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により手紙の支援はしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や造花等飾り心地よく過ごせるよう工夫している	家庭的な作りのワンルームで、台所、居間、畳のスペースが続き、思い思いの場所でくつろいで過ごすことができる。動線を確保するために、歩行器や、押し車は廊下に置くようにし、安全な移動にも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス ホールで気ままに過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ好みの雑誌等持ち込まれ自由に過ごされている	大きなクローゼットがあり、衣類等はすっきりと整理されている。転倒のリスクを検討し、ベッドを配置している。掃き出し窓からは、自由にテラスに出ることができ、明るく開放的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要時には居室の入り口トイレに目印等設置し安全に配慮した工夫をしている		